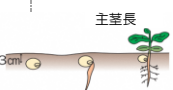
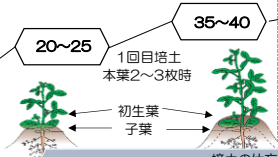
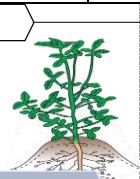
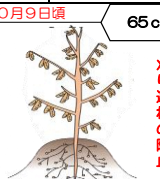


令和7年度

大豆栽培こよみ

みな穂農業協同組合
黒東地域農業技術者協議会

4月		5月				6月				7月				8月				9月				10月									
中・下旬		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬									
排水対策(傾縁等)・土づくり				播種・発芽期				草丈・節数増加期				開花期				莢伸長期				子実肥大期				黄葉期・落葉期				収穫期			
作業日程の目安	＜重要技術対策＞												開花期 7月20日頃								成熟期 10月9日頃				65cm						
	1 土づくりの実施と適正な施肥 2 排水対策の徹底 3 的確な中耕培土で根域拡大 4 適正な雑草、病害虫防除																														
	排水対策				土壌改良				種子消毒				耕起 施肥 播種				除草剤				排水対策				排水対策						
	排水対策				土壌改良				種子消毒				耕起 施肥 播種				除草剤				排水対策				排水対策						
	排水対策				土壌改良				種子消毒				耕起 施肥 播種				除草剤				排水対策				排水対策						
	排水対策				土壌改良				種子消毒				耕起 施肥 播種				除草剤				排水対策				排水対策						

排水対策

排水対策の効果

- 砕土率が上がり発芽・苗立向上
- 除草剤の効果向上
- 根量・根粒菌の増加
- 茎疫病・黒根腐病の発生抑制

土壌改良資材

収量・品質向上の為、有機物の積極的施用

資材名	施用量 (10a)
発酵ケイフン	150kg
堆肥	1t

土壌pH6.0~6.5を目標に生育量を確保

資材名	施用量 (10a)
苦土石灰	100kg

種子消毒

● 病害虫防除の種子消毒は必ず実施する

使用薬剤	処理方法
クルーザーMAXX	原液8ml/乾燥種子1kg

耕起・施肥・播種

● 低速のロータリー回転で行う
● 丁寧な耕起により作土深15cm以上を確保する

肥料名	10a当たりの施用量	
	単作	連作
化成肥料オール14	17~22kg	30~35kg
BB基肥084	25~30kg	40~50kg

品種	粒径	播種時期	栽植本数 (本/10a)	播種量 (kg/10a)
えんれいのそら	中粒	5月6半旬~6月上旬	14,000~16,000	4.2~4.8
		6月中旬	16,000~18,000	4.8~5.4
		6月中旬	12,000~15,000	3.5~4.4
シュウレイ	中粒	5月6半旬~6月上旬	12,000~15,000	3.5~4.4
		6月中旬	15,000~18,000	4.4~5.3
オオツル	中粒	6月上旬	10,000~12,000	3.2~3.8
		6月中旬	12,000~14,000	3.8~4.4

※ 耕起から播種の一連の作業は圃場が乾いた状態で、1日で実施

培 土

- 培土作業により根粒菌着生の増加
- 耐倒伏性・養分・水分吸収力の向上
- 溝を作ることで排水性の向上
- 中耕により雑草防除
- 培土後の溝の手直しと排水溝への連結

除草剤

時期	品名	散布量/10a	使用方法	特記	使用時期	使用回数
生育期間中	エコトップP乳剤	500ml +水100L	全面土壌散布	畑地一年生雑草	播種後出芽前	1回
	エコトップP細粒剤F	4~6kg	全面土壌散布	畑地一年生雑草	播種後出芽前	1回
	パワーガイザー液剤	200~300ml +水100L	全面散布	一年生雑草(アサガオ類) 発生前期~2葉期	出芽前~3葉期 収穫30日前まで	1回
	ナブ乳剤	150~200ml +水100~150L	全面散布	イネ科雑草3~5葉期	収穫30日前まで	1回
	ボルトフロアブル	200~300ml +水50~100L	全面散布	イネ科雑草3~10葉期	収穫30日前まで	1回
	大豆バサグラン液剤	100~150ml +水100L	全面散布	イネ科を除く一年生雑草	大豆2葉期~開花期	1回
	大豆バサグラン液剤	300~500ml +水100L	畦間処理		大豆生育期 収穫45日前まで	1回
	パスタ液剤	300~500ml +水100~150L	畦間処理	雑草生育期	収穫28日前まで	3回以内

病害虫防除

体系		農薬名	散布量/10a	対象病害虫	散布時期 (収穫前日数)	総使用回数
基本防除	粉剤	トライトレボン粉剤DL	3 kg	紫斑病 フタスジメハムシ カメムシ類	1 回目 8月上旬(14日前まで) 2 回目 8月中旬(14日前まで)	2回以内
	液剤	①スタークル液剤10	空散布量 800ml ① 100ml (8倍) +② 33ml (24倍) +水667ml	カメムシ類	1 回目 8月上旬(7日前まで)	2回以内
		②ブランドム乳剤		紫斑病		
		③トレボンエアー	空散布量 800ml ③ 100ml (8倍) +④ 100ml (8倍) +水600ml	カメムシ類	2 回目 8月下旬(14日前まで)	2回以内
		④トライフロアブル		紫斑病		
臨時防除	粉剤	マラソン粉剤3	3 kg	アブラムシ ハダニ類	発生始期(7日前まで)	3回以内

うね間かん水

● 開花期頃~9月上旬頃までは晴天が3日以上続くとき見込まれる場合はうね間かん水を行う

● 圃場の全体に水が行き届いたら水口を止め速やかに排水を行う

かん水の効果

- 根粒の活性化
- 青立ちの発生防止
- 収量や品質の向上

収穫・乾燥・調製

- 青立ち株や大きな雑草は、事前に抜き取っておく
- 露がなくなってから刈取りを行う
- 刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を巻き込まない

<刈取適期の目安>

褐色葉90%以上 (子実水分22%)
莢色が、緑~黄色でも、莢色が褐色なら適期